

日本の足跡

2024年 8月15日

經濟の崩壊と
ゆとり教育

生教が二十万人を越え、年々の大学進学の時期も過ぎ
 もあり、教育の拡大が必至となり、大学受験の厳しきも
 になつた。たからに。また、一緩和されたこととて、努力
 九七三、一九一一年までの経済成長があまり重視されな
 長により、所得の向上が見えた。また、「不登校」が社
 りれた。その結果、高等教育問題となり、また頃でも
 育への進学希望者が増加した。個性重視、生涯
 実電製品などの普及、奨学習得への移行、国際
 約革新も進み、女性の社会化、情報化などの変化の
 進出などに伴つて、生活応じ、主軸としたゆとり教
 水準の向上や、人々より育が生まれた。一九八〇年

そして、現代の思考力・判断力・表現力などの育成、知識の習得や理解の質を高め、
ふもとを基本とした教育を求めている。今ま
では、知識技能を習得することと重視して
今の学生 途中からいたが、今は予測不可能な
集団授業 未来（VUCA時代）に生
から個人でクロウする若者を育成するために
ムを利活用してや、社会でどのように役立て
るといふ形に変わるかと、自分で考え、
わけて、自分の表現し、判断する力に
ベースに合わせる。必要になる。

戦後はや
後ではない

当時の中学生に聞いてみた！
 黒塗り教科書、も終戦直後の日本教育の特徴のひとつである。しかし、高等教育のない校内暴力への進学率は、一九五〇年や登校拒否、いじめの時点で、約五〇％と低かった。
 平日以外にも土曜日、三時間授業があった。子どもの人数も今よりずいぶん多く、五、七クラスあった。校内暴力の全盛期で、壁に穴があたり窓ガラスが割れたり、荒れていた。先輩の上下関係が厳しく、時には殴られる時もあり、先輩の言うことは絶対との界だった。ただ、今より「義理人情」に厚く仲間意識が強く、地域同士つながりが強かった。また、高度経済の時代だったこともあり、いろいろなところを勢いのある時代だった。

今とは、似ても似つかないですね。

従来の教育、弊、
 学力、
 学力

ゆとり世代

高度経済成長の時からある
不登校やいじめに加え、
非行・落着けず、自殺
などの社会問題に対応する
ために

A
I

今日の新聞をくりて
教育は良くも悪くも時
代の影響を受けている
ということ、日本は戦
後七十八年という短期
間に様々な栄古盛衰を
いうふうなつまつて
いるものにと感じまし
た。事実をまとめるた
けでなく、当時の様子
を両親から聞くことば
で、良かたです。

語り伝えた。『太平洋戦争(第5巻)』における戦後の平和への道